

## 随 想

この小品は私が技術生活 59 年の大部分すなわち今から逆算して 50 年間の出来事を回想した記録に、いささか随想を交えたのもので、もっぱら首都東京の下水改良工事に終始している。私が直接これに関係したのはわずかに創設期の 10 有余年にすぎないが、その後においてもほかの仕事にたずさわるかたわら「インテレスト」をもって常にその成育に留意していたことが、私の責任期間の範囲を超越して筆を走らしめたのである。

## 時 の 流 れ 五 十 年

米 元 晋 一

私は今から 50 年前、明治 44 年始めて東京市(都)の創設下水改良事業に關与して苦勞した技術者の一員である。当時市民の大多数は衛生知識皆無に近く、また欧米先進国の事情を皆目知らず、下水道とはただ雨水排除の施設に過ぎずと考え、なおまた現実には汚水排除、ことに尿の始末に今日のように苦しめられなかった。そのため、わが国では始めての雨水と家庭汚水とともに尿をもあわせて下水管内に収容して水運式で終末吐口に流下し、そこで処理浄化、かつ消毒したうえで公共水域に放流する方式の概算、およそ 3300 万円(現在の約 330 億円に当る)を要する改良下水道布設一部実施の大事業案を尾崎市長が大英断をもって多くの反対を押切って市会で決議せしめたのだから、一部の市会議員をふくめて多数市民の反対が猛烈をきわめて事業にたずさわる者に対し種々圧力が加えられたのは、上記のように 50~60 年衛生観念が欧米文明国に比して立ちおくれであり、また古来嗅ぎ慣れているので大氣の汚染臭についても欧米人に比して不感性だったことや、加えて一般市民に対する啓蒙と指導および宣伝が不十分だったなどのため、当時としては市民の納得が得られなかったのだろう。されば当事者は反対に直面し圧力に抵抗し啓蒙しつつ市民を引きずって工事の進行に努めたものであるが、これを当事者がかえって都民に引きずられて下水改良に専念しつつある今日の状況と比較すると転た隔世の感あるのみである。

私は市のこの事業を担当すること 10 有余年で職を退き「バトン」を他に渡し、またその「バトン」はリレー式に次々に後任担当者に渡されて今日に至る間、市が都に膨張するにもなって事業の規模もまた漸増して昔日に比し数倍に拡大し、かつまた都民の感覚もいちじるしく改善せられた今昔を回顧対比すれば誠に夢のごとき心地する。本事業の揺籃期における市民感覚は次にあげる私の在職中の三、四の「エピソード」によっておおむね察知できるであろう。

### し尿を下水道に放流するは怪しからんという説

し尿は農家唯一の肥料であり、かつ市民の有価物件である。もしこれを下水道に放流するとき市民は旧慣のごとく農家から汲取り料金を取得できない。また農家は蔬

菜類を栽培し得なくなり旧東京市 15 区国鉄山手線外郊地の大部分はほとんど田畑であった一市民は蔬菜の入手に行きづまるであろうと、衛生問題とは引きはなしてこれを反対の「スローガン」とする者が多かった。これに対し市当事者は次のごとく説得慰諭につとめた。すなわち、し尿は衛生上、清掃上から見て将来ぜひとも下水道に放流して各戸汲取りの煩を避くるを得策とする時期が到来すること明らかである。蔬菜肥料の心配については終末吐口処理場に流集する下水汚泥を衛生肥料化することも困難ではない。なお、また市の設計は将来の備えに過ぎずして、今ただちに、し尿の放流を市民に強要するのではないから、あえて反対するいわれはないだろうと万言を費したものである。

### 人参を飲んで首を絞るの弁

これは韓国の俚語だそうだが雄弁な一市会議員が、下水問題に関してことごとく大声叱咤して当時者誹謗の一種の「スローガン」として使用したものである。いうところによれば、東京市民は巨額を要する改良下水道の工事費をまかなうに足る税を支払う資力がなから結局人参を飲んで首を絞るのが落ちだというのである。その意味は昔、韓国の一貧農に親孝行で評判高い一人息子がいたが、不幸親父が難病にかかり種々手をつくせども快癒せず日々重態に陥り、勤からず憂慮していた。たまたま知人の申すところによればこの病は人参を煮じて飲まれば快癒できまふとのことだった。しかるに息子は高価の人参を買う資金がなかつたので親父に無断で田畑を入質し金を工面して人参を入手し、早速これを煮じて飲ましたところ効果たちまち現われて親父の病気が全癒するに至ったので親子は相擁してよろこんだのもつかの間、畠の入質田畠を取りもどし得ず、苦悶の末ついに孝行息子は首絞って死んだというのである。これは孝行息子を市民に、人参を下水事業に、また当事者を親父にたとえたのである。ばかばかしい話だが黙殺のほかなかつた。

### 水洗便所を不許可にせよとの要請

大正 3、4 年の頃と思うが東京市内丸の内、神田、日本橋、京橋の繁華街を流れている水路、通称外濠(現在

大半が埋立てられた)が夏季はなほだしく悪臭を発散して沿線の住民はもちろん道行く人まで大変不潔感に悩まされ、新聞紙上にも仰々しく書き立てられたことがある。これは帝国ホテル、東京駅、日本銀行、そのほか洋式建築物から水洗便所の汚水を濠に放流することに基因すと見なされたのである。当時この種の汚水は今の清掃法の前身、旧汚物掃除法により直接放流は禁止せられ、すべて建築敷地内に汚水溜を設けていったんこれに放流し、貯溜にしたがって汲取り、ほかに運搬処理するよう規制せられていたけれども往々運搬の煩を避くるがため夜陰ひそかに溜の上水(うわみず)を最寄りの濠池に放流する者あり、との噂話を聞込んだ下水反対者の「スローガン」補強に悪用せられたのである。濠水からの悪臭発散の主因はほかにあったが、ここではこれを省略する。ある日貴族院の錚々たる華族議員3人が反対者の尻馬に乗って相携えて警視庁を訪れ、総監に面会を求めて水洗便所の使用は市民有価物件および農家肥料の遺棄損失たること、ならびに悪臭放散の原因をなすなどの故に断じて許可すべきでない、との強要をなし、足を延ばしてさらに市庁を訪れ、市長に対してもまた同様の陳情をしたので、さすが温厚の阪谷市長もこれには色をなして、かかる上層知識階級の人々が存外文明国施設について文盲なのは実に慨歎の至りだと述懐せられた言葉は今なお私の耳朶に残っている。

### 冷汗三斗の思をさせられたこと

大正6,7年頃と記憶するが旧浅草・下谷両区(現台東区)等における下水管の布設が大分渉取り、また三河島処理場の設備も着々進工中で市民からの下水反対の氣勢も漸次緩和されつつあった。時あたかも第一次世界大戦後財界の好景気と化学肥料が人肥に肩替り傾向の強化とに反影して市内各戸のし尿汲取料が暴騰を來したのみならず、汲取りそのことが不円滑に陥りて糞詰りの状況を呈し、市民を大いに悩ましたことを記憶する者は今なお多いだろう。しかるところ、私はある日浅草区会議員の要請に応じて工事現場に向いたとき、顔なじみの一議員が私をつかまえていわく、自分は当初市の下水工事に反対した。そのわけは各戸の汚水を下水管内で雨水と分離して遠く三河島処理場まで導流し同所で浄化の上荒川に放流するとき贅沢な設計に反対だった。しかるに当今のごとくし尿汲取りの不円滑に直面して始めて市の設計が時世に最適であり、また経済でもあることを悟了した。改良下水工事に反対したのは全く考え違いであったから、ここに自分の愚を平謝する。さすがに学者は将来を透視して仕事を企図するから敬服の至りだと賞讃の辞を呈せられて冷汗三斗の思いをしたのだった。

以上により着工後6,7年を経過した頃には市民の中

に若干下水事業の意義を了解する者があったが、大部分は超時流の構想に立脚して計画されたことに気づかず、依然として反対を持続するので、パイオニアは割の悪い「縁の下の力持」だと当事者をなげかせたものであった。たぶん当時者側にも若干行政の手落があったためかも知れん、介意すべきことだと思うのである。その後歴代の後継担当者の捲まざる啓蒙と指導とが時の経過とともに功を重ね、都民感覚を訓化改善し漸次抵抗を緩和して仕事前進の気運を兆するに至ったが、市域の旧市15区から都23区へと拡大して数々の設計変更をとまなびて工事量また次々に増大するに反し、技術者の不足と財源の裏付けがこれに対応し職がない場合が多かったため、戦前戦中を通じ久しく事業の進展が足踏みを続けたのはかえすがえすも惜しいことであった。幸い戦後米国進駐軍の勧告が環境衛生改善をうながす契機を与え、また事業の一部竣功による実物が都民の眼前に展示せらるるなどのため都民感覚はいっそう改善し、往昔のごとき反対の声は一掃せられ、今やかつてその速かなる完成を要望してやまざるに至った。都はこの要望と明後年の「オリンピック」開催との関連を契機として、今年度初頭従来の本事業執行の機構を改めて強化し、いよいよ本腰を入れて本事業の完遂を決意するに至ったのは東都知事の英断に出でたもので特筆すべき措置にほかならないが、時の力が解決したともいうべきである。

さて東京都改良下水事業の生い立ちを囲碁にたとえれば、50年のうち前10年は対局者の一方の打者自らの実感を述べたものだが、あと40年は盤側傍観者の岡目八目を筆にしたに過ぎない。その間幾多反省すべき点を見つけたとしても、ここに碁は50年を超えてなお打ち続けられているのだから助言は差控えねばならぬ。その代り抽象的の言葉をここにそう入することはあえて差つかえないだろうと考えるが、それは本稿に引用したごとき多数庶民を相手とする公共事業の遂行には第一番手に啓蒙、指導およびP.R.を先駆して事業に対する庶民の納得とおよび財源の確立をはかり、第二番手の勤勉、努力、および忍耐の果実がなるべく短い時の流れのうちに円満に成熟するよう采配することが行政的要諦だということである。さてこの碁には時間を制限し得ないので局を結ぶのは20年後か30年後か、見当がつかぬのはやむを得ないだろう。

(1962.8.23-記)

### 米元晋一氏略歴

- |       |   |
|-------|---|
| 明治36年 | 東京帝国大学工科大学卒ただちに東京市に勤務し上下水道事業を担当、同44年欧米各国の下水道施設を視察し、帰国後下水課長、水道拡張課長等を歴任 |
| 大正10年 | 退職後東京市下水道調査委員、山口その他各都市計画委員を委嘱されるほか、釧路市等22都市の顧問として上下水道調査、実地指導にあたる      |
| 昭和29年 | 土木学会名誉員に推挙せられる  |